



証券コード：2588

# 2023年3月期（第17期）第2四半期 決算説明補足資料

2022年11月10日（木）



PREMIUM WATER HOLDINGS

# 目次

1

2023年3月期 第2四半期 実績（対前年）

2

Appendix

- (1) ビジネスモデル
- (2) SDGsへの取り組み

1

## 2023年3月期 第2四半期 実績（対前年）

堅調な顧客の積み上げに加え、既存顧客に対する継続率向上や物流の効率化等の各種取り組みにより、増収増益。

(億円)

	2022年3月期 第2四半期 累計	2023年3月期 第2四半期 累計	増減	増減率
売上収益	329.2	381.8	52.6	16.0%
売上総利益	281.0	323.8	42.7	15.2%
営業利益	29.3	37.4	8.0	27.6%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	16.1	21.3	5.2	32.2%
E B I T D A (営業利益+減価償却費)	69.4	83.9	14.4	20.8%

# 売上収益の増減要因

新規顧客獲得に加え、既存顧客の継続率を向上させることにより保有顧客数を積み上げる。  
顧客数の増加により天然水の出荷量も増え、当第2四半期においても増収を継続。

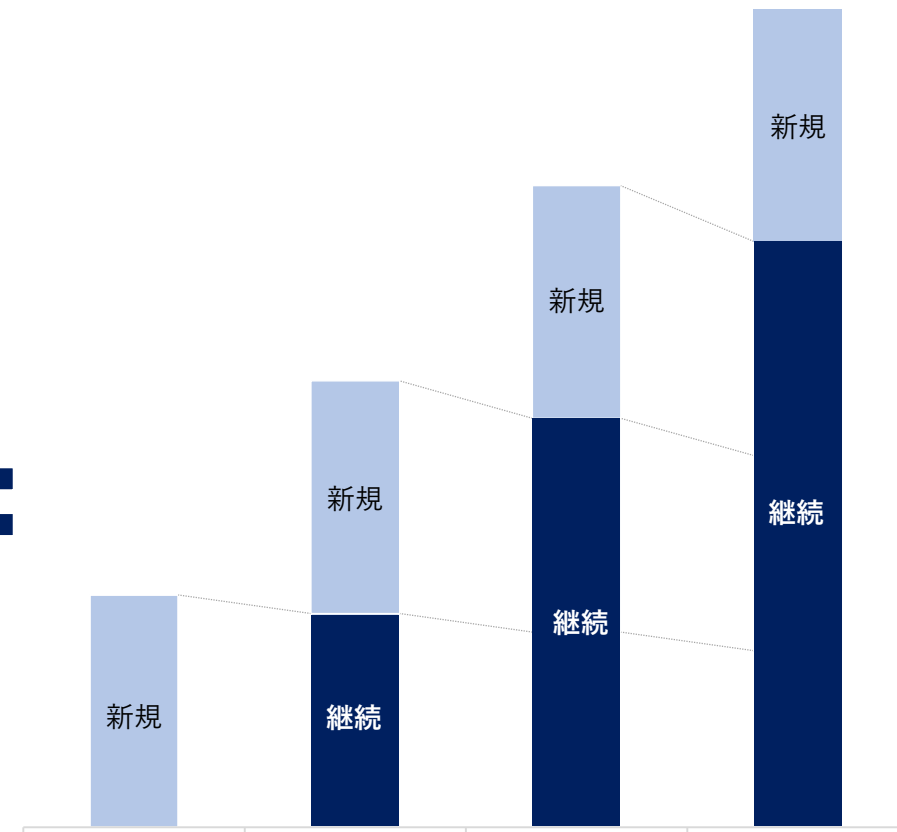


新規獲得  
+  
低解約率

保有顧客数の増加



天然水の出荷量増加



売上拡大

※当社の詳しいビジネスモデルについては、P.15~18をご参照ください。

# 継続率向上への取り組み

保有顧客数の増加に伴い、既存顧客に対する継続率向上のための施策が今後さらに重要となる。顧客のニーズに沿った取り組みにより、保有顧客数が堅調に推移し、150万人を突破。

新規獲得

+

## 継続率向上のための施策



ウォーターサーバー契約者限定のショッピングサイト、  
アプリからの手続き等

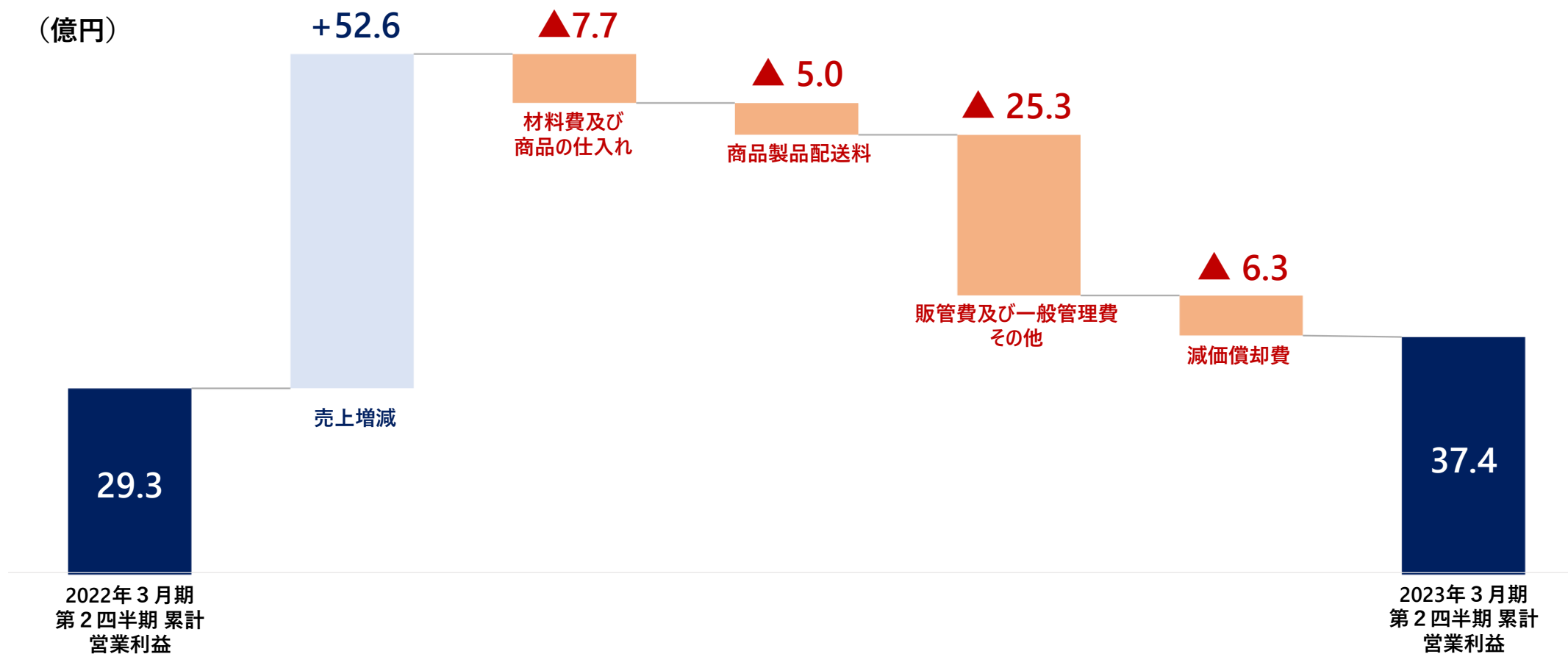
ユーザビリティの向上

保有顧客数が

150万件を突破

# 営業利益の増減要因

物流効率化の施策に重点的に取り組むことにより、  
売上の増加に対して配送費の増加割合は低く抑えられている。



# 物流の効率化への取り組み

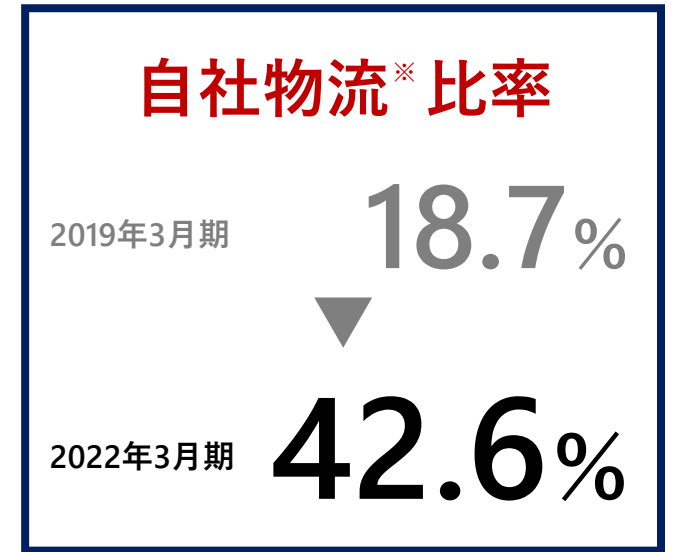
8つの水源を保有することで、配送先の近くの水源から天然水をお届けすることが可能に。さらに、保有顧客の増加にあわせ、独自の自社物流網<sup>※</sup>を拡大させることにより、物流の効率化を実現。



業界No.1の全国8水源から天然水を提供



大手配送業者だけでなく、それ以外の配送パートナーとの契約が可能に！



物流の効率化

※全国に物流網を持っている大手配送業者以外の配送パートナー



# 営業外損益

(億円)

	2022年3月期 第2四半期 累計	2023年3月期 第2四半期 累計	増減	増減率
営業利益	29.3	37.4	8.0	27.6%
金融収益 + 金融費用	▲3.4	▲3.8	▲0.3	11.6%
持分法による投資損益	0.1	▲0.1	▲0.3	—
税引前四半期利益	26.0	33.4	7.3	28.2%
法人所得税費用	▲9.8	▲12.0	▲2.1	21.7%
非支配持分	0.0	0.0	▲0.0	▲2.3%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	16.1	21.3	5.2	32.2%

# 業績予想に対する進捗

第2四半期時点で前期と同程度の進捗。

保有顧客数の着実な積み上げにより、進捗状況としては順調。

(億円)

	2023年3月期 通期 業績予想	2023年3月期 第2四半期 累計実績	進捗率
売上収益	750.0	381.8	50.9%
営業利益	70.0	37.4	53.5%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	40.0	21.3	53.5%

※当社の詳しいビジネスモデルについては、P.15～18をご参照ください。

# 連結貸借対照表

(億円)

	2022年3月期	2023年3月期 第2四半期	増減
流動資産	323.5	318.3	▲5.1
現金及び現金同等物	203.2	207.5	4.2
営業債権及びその他の債権	78.1	79.0	0.9
棚卸資産	5.7	4.4	▲1.3
その他	36.3	27.2	▲9.0
非流動資産	407.3	430.2	22.9
有形固定資産	220.7	242.2	21.5
無形資産	22.3	22.9	0.5
契約コスト	113.2	117.8	4.5
その他	50.9	47.2	▲3.6
総資産	730.8	748.5	17.7

(億円)

	2022年3月期	2023年3月期 第2四半期	増減
負債	587.8	590.4	2.5
流動負債	207.5	246.1	38.5
営業債務及びその他の債務	100.1	90.3	▲9.8
有利子負債	86.8	138.3	51.5
その他	20.5	17.4	▲3.1
非流動負債	380.2	344.3	▲35.9
有利子負債	375.5	339.4	▲36.0
その他	4.7	4.8	0.0
資本	142.9	158.1	15.1
株主資本	142.8	157.9	15.1
その他	0.1	0.1	▲0.0
負債及び資本合計	730.8	748.5	17.7

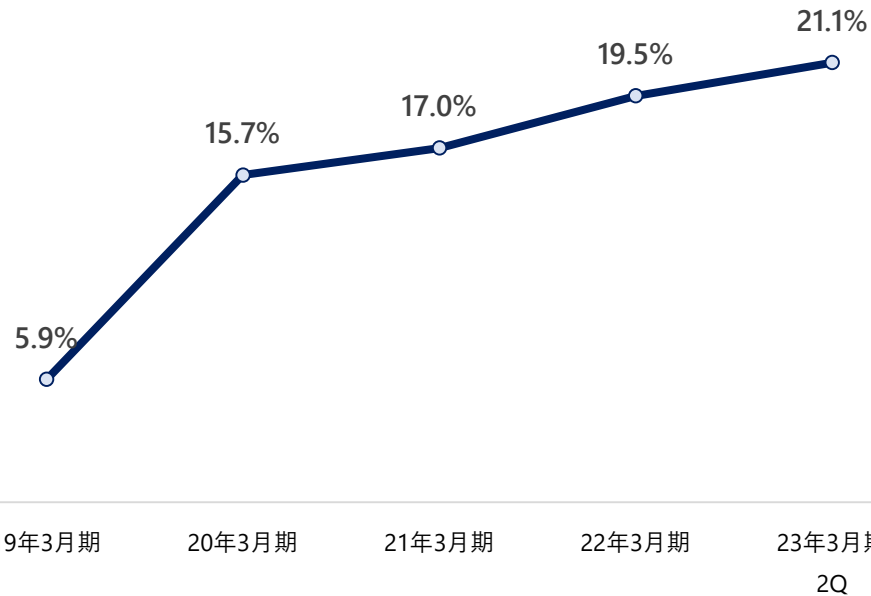
# 連結キャッシュ・フロー計算書

(億円)

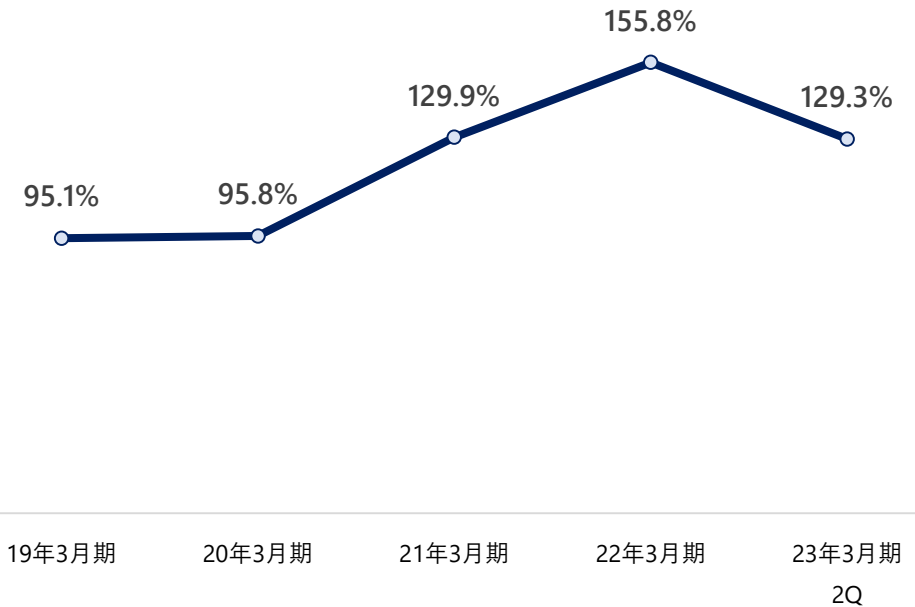
	2022年3月期 第2四半期 累計	2023年3月期 第2四半期 累計
営業活動によるキャッシュ・フロー	21.6	65.9
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲19.8	▲14.5
フリー・キャッシュ・フロー	1.8	51.3
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲37.4	▲47.3
現金及び現金同等物の期末残高	133.0	207.5

自己資本比率は20%を超え、改善傾向。  
流動比率も、引き続き安定して120%超を維持。

自己資本比率



流動比率

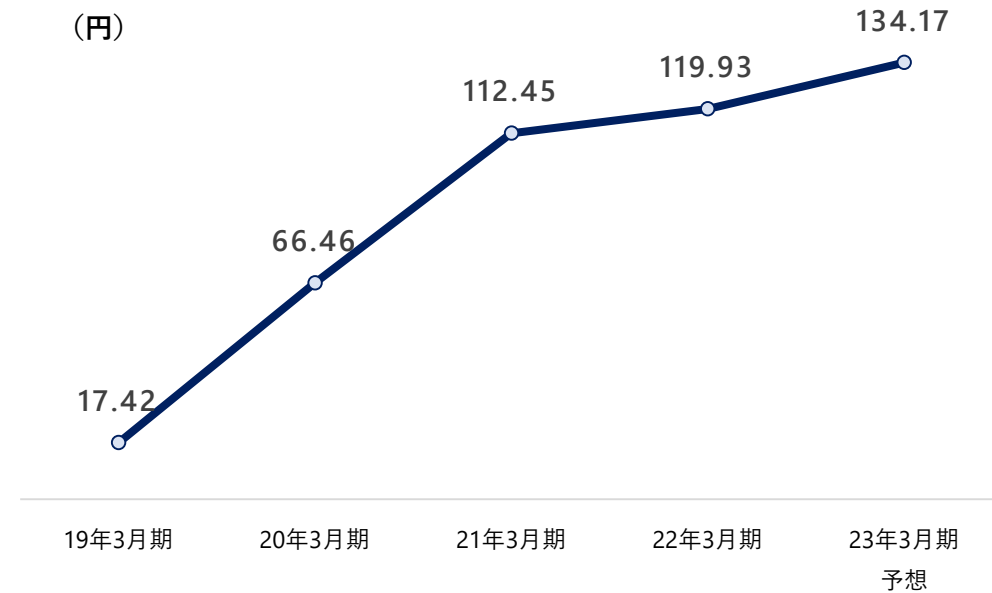


※ A種優先株式（2017年9月28日発行）はIFRSでは金融負債に分類するため、2019年3月期末では負債へ計上。しかし、2019年6月の定時株主総会の決議及びA種優先株式のみなし決議による本優先株式の内容変更に伴い、負債から資本へ組み換えを実施。そのため、19年3月期と20年3月期の自己資本比率に大幅な変化が発生。

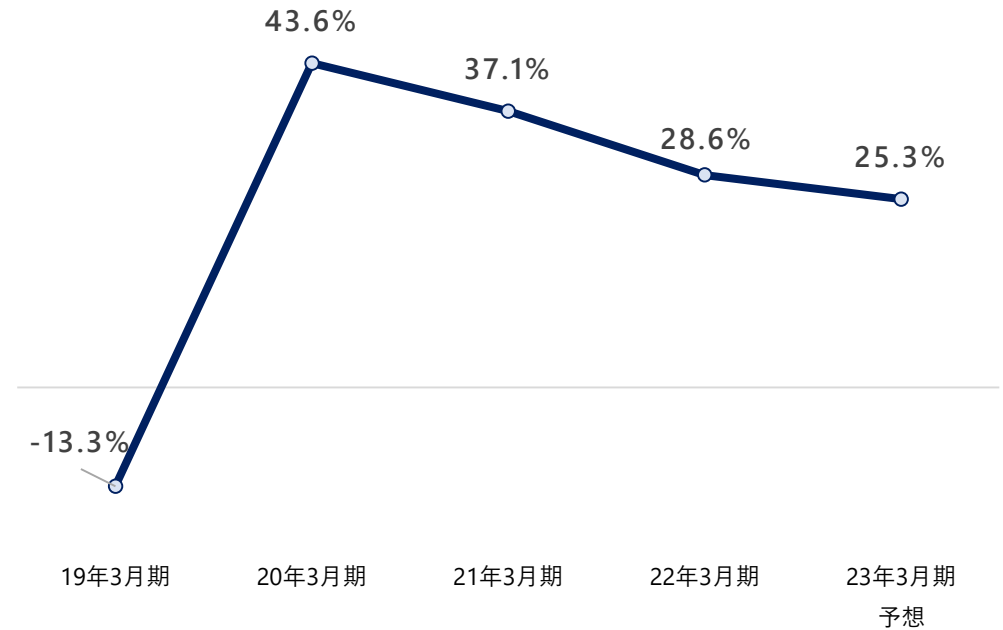
基本的1株当たり当期利益は堅調に推移。

ROEも引き続き20%超の予想。

基本的1株当たり当期利益



ROE



※ 2019年3月期は日本基準のため、「基本的1株当たり当期利益」は「当期純利益」。

2

## Appendix

### (1) ビジネスモデル

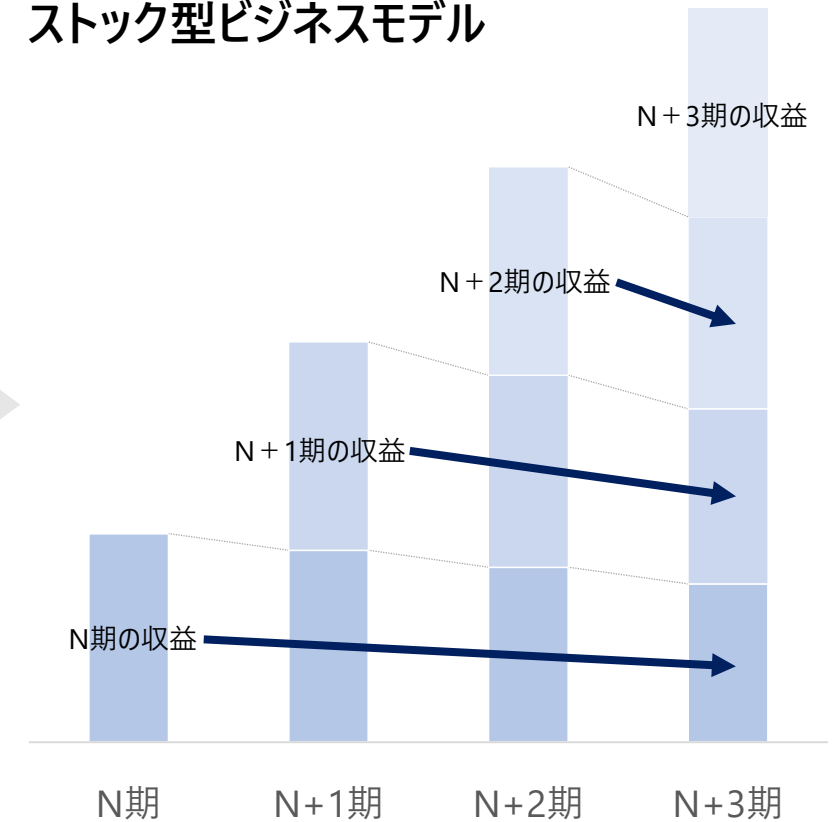
# ストック型ビジネスモデル

顧客の増加により、確実に収益増加が見込める  
安定性の高いビジネスモデル。



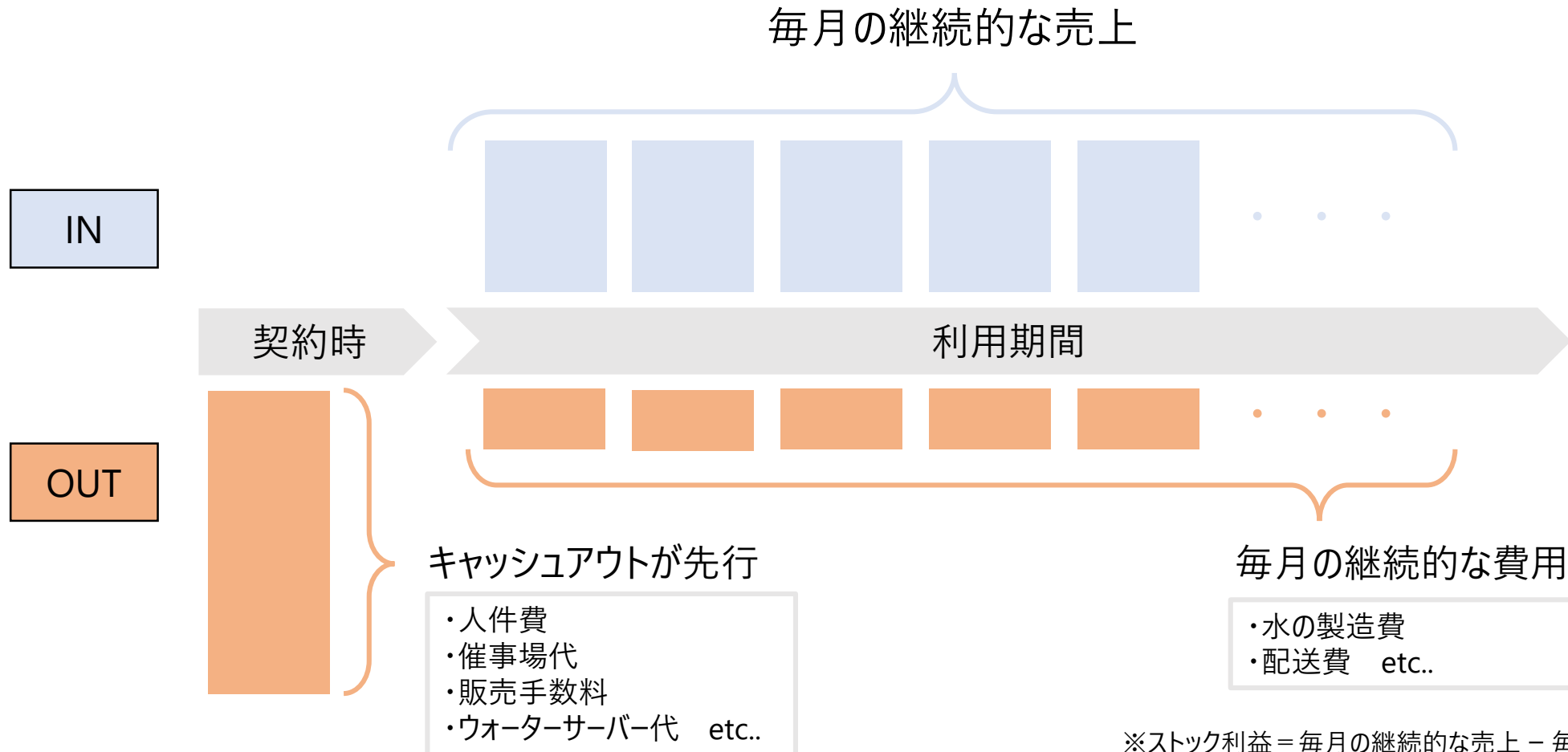
顧客 1 件あたりの獲得コストが  
一定水準であれば

## ストック型ビジネスモデル





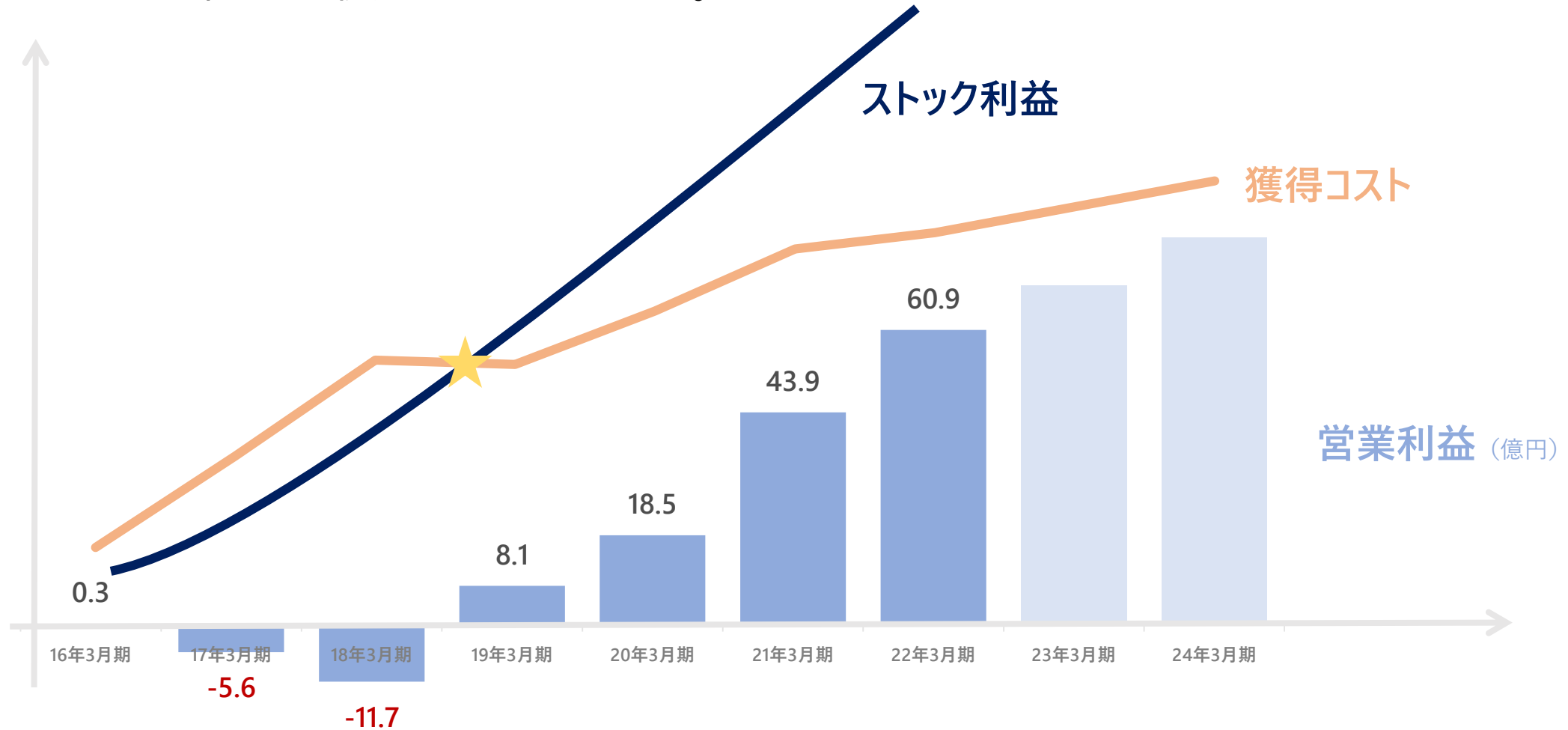
獲得のための人件費やウォーターサーバー代等、キャッシュアウトが先行。  
毎月の継続的なストック利益※により、長期的に回収していくモデル。



※ストック利益 = 毎月の継続的な売上 - 毎月の継続的な費用

# 成長イメージ

順調なストック利益の積み上げにより、2019年3月期より黒字化。  
今後もストック利益は積み上げられていく。





## Appendix

### (2) SDGsへの取り組み

## プレミアムウォーターホールディングス SDGs宣言



プレミアムウォーターホールディングスでは「水を守り、人を育むこと」を掲げ、事業活動を通じたさまざまな社会課題に取り組み、私たちに関わる全ての人々が豊かになることを目指します。そして社会課題の解決と経済発展の両立を図ることによって、持続可能な社会の実現に貢献していくことを宣言いたします。

SDGs特設ページ：

<https://premiumwater-hd.co.jp/sdgs/>

# 当社のSDGsへの取り組み

## こども食堂へのお米寄付



貧困や孤食という問題を抱える子どもたちの食が少しでも豊かになることを目的に、貧困家庭や孤食の子どもに食事を提供する「子ども食堂」に自社富士吉田で収穫したお米を寄贈しました。

## 小学校での出張授業



小学校から行われるキャリア教育の一環として出張授業を実施しています。天然水を取り扱う企業だからこそ伝えられる「お水や自然の大切さ」と「日本の天然水という価値ある資源を未来に残していくために、自分たちにできることは何か」を子どもたちに自由な発想で考えていただきます。

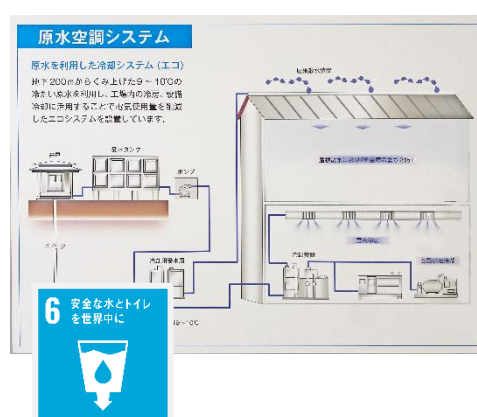
## 災害時の支援・復興サポート



山梨県富士吉田市、兵庫県朝来市と「災害時における飲料水の供給に関する協定」を締結しており、災害発生時に被災者に飲料水の提供が必要となった場合、無償供給およびサーバーの無償貸与を行います。

他にも、西日本豪雨による被災地支援品の寄贈、熊本地震における義援金寄付、熊本復興支援イベントの開催等も行っています。

## 地下水の利用



富士吉田工場では、地下水200mからくみ上げた9度～10度の冷たい原水を利用し、工場内の冷房・設備冷却に活用することで電気使用料を削減したエコシステムを設置しています。

## 安心安全のナチュラルミネラルウォーター



同社グループの製品（ナチュラルミネラルウォーター）は、一般の公的基準よりも厳しい自社基準を設け、1日に10数回に及ぶ自主的な検査（水の微生物検査、理化学検査、官能検査）と定期的な放射線物質の検査を実施しています。また、赤ちゃんのからだにもやさしい「軟水」を提供しています。

## PETボトルの軽量化



PETボトルの構造を変更し、従来より20%軽量化（プラスチック使用量削減）したボトルに順次入れ替え、2020年4月現在全水源の97%で軽量化を実施済みです。

## 公平な人事制度・ジェンダー平等への取り組み



人事考課での公平性を確保するために、人事ポリシー・考課制度を再整備しています。また、産前産後休業や育児休業・育児休業給付、育休中の社会保険料免除のほか、制度の周知や情報提供を行っています。

## 森林整備活動（西桂地区）



地域の水資源育成に向け、水源涵養機能の高い森が、良い水資源を生み、豊かな食生活を生むという考えから、西桂工場のある山梨県の西桂地区において健全な森を作る間伐等の整備を行っています。

## 1. 掲載された情報についてご注意いただきたい点

当資料を通じ、財務情報、経営指標等の情報の開示を行います。当社は、当資料を通じて情報開示を行うにあたり細心の注意を払っておりますが、当資料に掲載した情報について内容の正確性等を保証いたしません。当資料による情報開示は、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終的な決定は、ご自身の判断でお願い致します。当社は、当資料に掲載された情報を利用したことにより生じたいかなる損害についても、一切責任を負いません。

## 2. 将来の見通しに関する事項について

当資料に掲載されている情報には、業績予測等の将来の見通しに関する記述が含まれていますが、これらはリスクや不確実性を内包するものです。業績予測等の将来の見通しに関する記述は、その実現性を保証するものではなく、当社を取り巻く経営環境や市場動向の変化等により、実現しない可能性があることにご注意ください。

## 3. 当資料の運用について

当資料は予告なく配布の中止や内容の変更を行うことがあります。当社は、当資料を利用できなかったことにより生じたいかなる損害についても、一切責任を負いません。

<お問い合わせ先>

株式会社プレミアムウォーターホールディングス IR担当

メールアドレス：ir@premiumwater-hd.co.jp



PREMIUM WATER  
HOLDINGS